

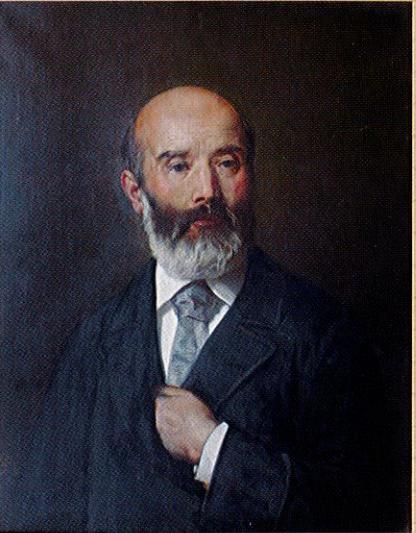
蚕種製造業で栄えた島村の面影を残す田島弥平旧宅

田島弥平旧宅は、幕末から明治にかけて、優良な蚕種（蚕の卵）を生産する養蚕技法「清涼育」を体系的に完成させ、規範となる養蚕建物も発案し、近代養蚕飼育法の確立を図った田島弥平の旧宅です。弥平は自然飼育法が基本であった当時の養蚕技術に改良を重ね、安政3年（1856）から自宅の養蚕建物の改良と実践を行いました。その後、『養蚕新論』、『続養蚕新論』を著し、養蚕建物では空気の循環が重要であることを理論的に体系づけ、「清涼育」の普及に努めました。弥平が考案した養蚕建物は、空気循環を良くする2階建て、瓦葺、気抜き用の窓（櫛）付きの建物形式であり、以後全国の規範となりました。「清涼育」は、明治中期に高山社が指導した「清温育」が普及するまで、養蚕技術に大きな影響を与えました。

主な建物の規模

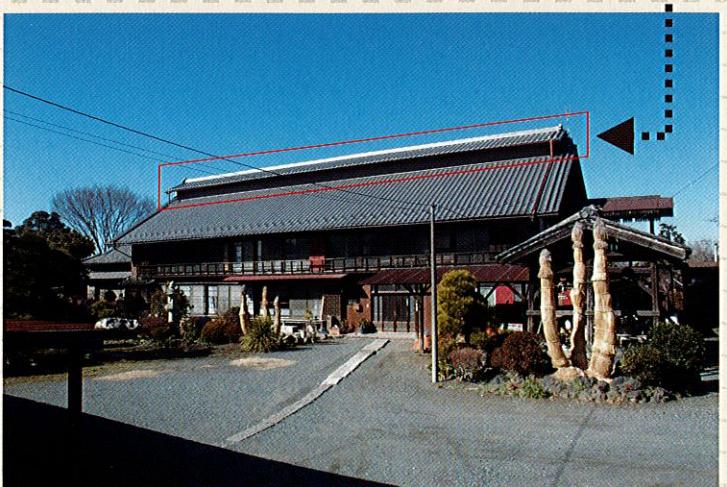
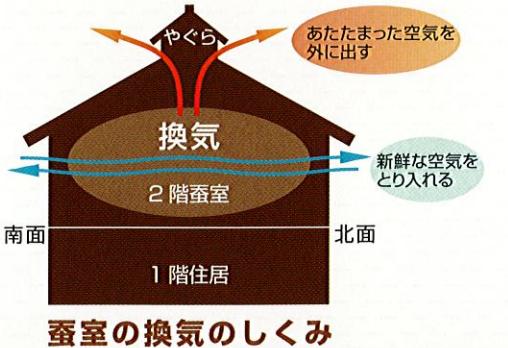
建物	建築年代	規模
主屋	文久3年（1863）	13.5間×5間 (25.380m×9.400m)
桑場	明治27年（1894）	8間×3間 (15.091m×5.635m)
種蔵	明治16年（1883） (再建)	6間×2.5間 (11.172m×4.655m)
別荘	幕末	2.5間×4.5間 (4.697m×8.464m)

田
島
弥
平

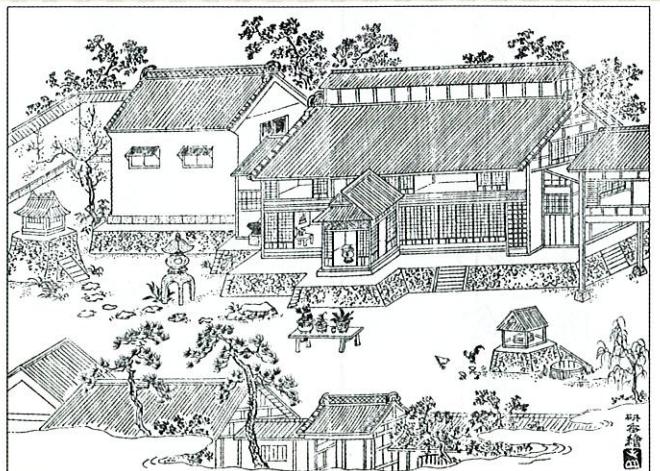


（明治13年イタリアで製作）
田島弥平肖像画

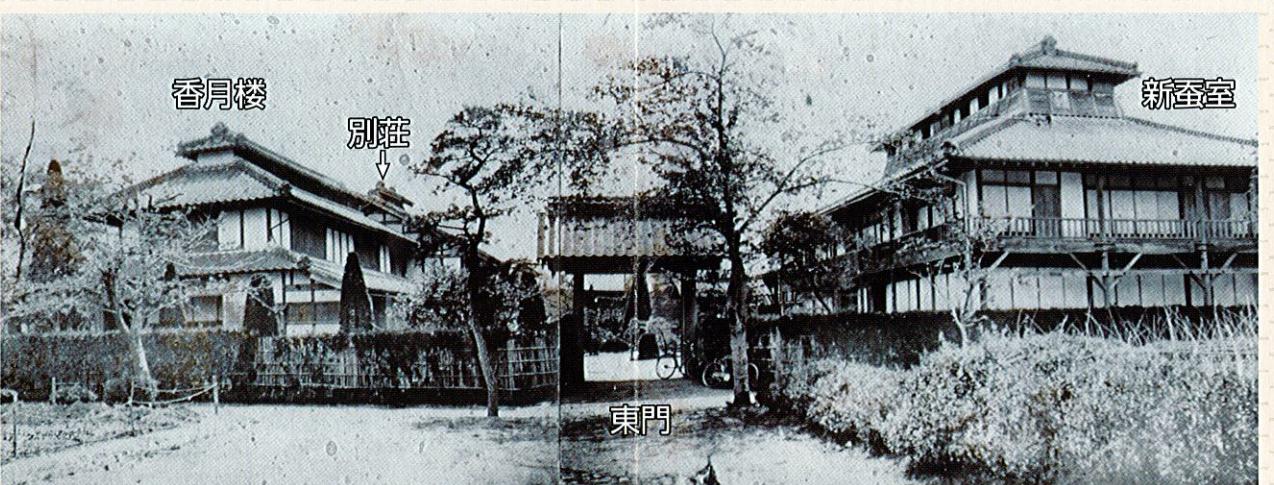
文政5年（1822）	・田島弥平（2代目）生まれる ・田島弥兵衛（初代）、利根川の中洲（前島） から現在地へ移住
嘉永6年（1853）	弥平、山形県米沢方面へ行く
安政3年（1856） ～5年（1858）	実験的な瓦葺2階建やぐらのついた蚕室 (香月楼) を建て、改良を行う
文久3年（1863）	住居兼蚕室の主屋が完成
明治5年（1872）	・島村勧業会社の設立 ・『養蚕新論』を刊行（「清涼育」の完成） ・宮中養蚕奉仕のため皇居へ参内する
明治6年（1873）	宮中養蚕奉仕のため皇居へ参内する この頃、弥平宅へ全国から養蚕伝習に訪れる
明治9年（1876）	田島武平と弥平は、延島新田村（現・栃木県 小山市）にて蚕種製造に着手
明治12年（1879）	・『続養蚕新論』を刊行 ・青山御所の御養蚕所の設計を行い、宮中 養蚕にも参内する ・島村勧業会社、イタリアへの蚕種直輸出を 開始。弥平ら3人はイタリアへ渡る (明治15年まで4回行う)
明治19年（1886）	島村勧業会社解散
明治22年（1889）	パリ万国博覧会へ蘭を出品し、銀牌を受賞
明治25年（1892）	緑綬褒章を授与される
明治31年（1898）	田島弥平亡くなる。76歳



文久3年建築の住居兼蚕室の主屋



『養蚕新論』(明治5年)に描かれた主屋



明治40年代の田島弥平旧宅（東側から撮影）